

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
Sp34500D ④	特別支援教育	1単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>特別な教育的ニーズのある子どもを含めたすべての子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し生きる力の基礎を培えるようにするため、特別な教育的ニーズのある子どもの生活等における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：特定の診断名における教育的ニーズを理解し、具体的な支援方法や留意点を表現できる。特に、注意欠如・多動症を持つ子どもの対応について、文献収集を含めて独力で学習し、保育場面での振り舞いまで想像できる。</p> <p>科目試験：特別支援教育の対象となる子供の支援方法について説明できる（病弱・身体虚弱・知的障害・限局性学習症を対象とする）。特別支援教育コーディネーターの役割について理解し、説明できる。特別支援教育の基本となる法律特別支援の対象は貧困状態の子どもなど、障害を持つ子どもに限らないことを理解し、説明できるほか、特別支援学校の役割や、合理的配慮概念の成立と実践例についても説明できる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>特別な教育的ニーズを持つ子供を支援するにあたって、子供自身の特性を理解するのはもちろん、子供を支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程（特別支援教育とは） <ol style="list-style-type: none"> <li>①特別な教育的ニーズとは何か</li> <li>②特別支援教育課程と学びの場</li> </ol> </li> <li>発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性 <ol style="list-style-type: none"> <li>①発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち</li> <li>②子供一人ひとりのニーズに合わせた学び</li> </ol> </li> <li>視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子供の特性 <ol style="list-style-type: none"> <li>①多様な子供のニーズの理解</li> <li>②多様な子供の学びと生活</li> </ol> </li> <li>子供のニーズに合わせた支援 <ol style="list-style-type: none"> <li>①教育課程における支援</li> <li>②通常の学級における担任による支援</li> </ol> </li> <li>教育チームによる組織的支援 <ol style="list-style-type: none"> <li>①個別の指導計画及び個別の教育支援計画</li> <li>②アセスメントに基づく計画と評価</li> </ol> </li> <li>特別支援教育コーディネーター <ol style="list-style-type: none"> <li>①特別支援教育コーディネーターの役割</li> <li>②外部教育資源との連携と協働</li> </ol> </li> <li>保護者・家庭支援と連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者・家庭をとりまく問題</li> <li>②保護者・家庭とのつながりの重要性</li> </ol> </li> <li>特別な教育的ニーズを考える（現代的な視点から） <ol style="list-style-type: none"> <li>①母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解及び支援</li> </ol> </li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「特別支援教育」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「病気の児童生徒への特別支援教育～病気の子どもの理解のために～」</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題を通して専門知識の理解、獲得及び思考表現を判定し評価する。 （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			